

5－9					
主題	排泄ケアの最適化による「漏れゼロ」の実現				
副題	データ分析と個別ケアが生み出した負担軽減とケア品質向上				
キーワード 1	大きなパッド	キーワード 2	データ分析	研究(実践)期間	5ヶ月

法人名	社福) 積善会	事業所名	特別養護老人ホーム 長洲園
発表者(職種)	柏葉隼(介護職員)、小島愛(介護支援専門員)		
共同研究(実践)者	佐香薫(介護リーダー)		

電 話	0428-23-6776	FAX	0428-23-6794
-----	--------------	-----	--------------

事業所紹介	長洲園は、昭和 60 年開設の定員 100 名の特別養護老人ホームです。ご利用者一人ひとりがその人らしい生活が出来る介護を目指すとともに、ご利用者の健康管理も医師(非常勤)が週 3 回の診察や、健康診断を実施します。協力病院とも提携し、安心安全に入所していただける施設を目指しています。
-------	---

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

私の所属しているフロアでは定員 54 床あり、そのうちテープ式オムツ利用者は 61%にも及ぶ。また尿漏れや便漏れなどによる更衣も頻回に起こっており、利用者様、職員ともに大きな負担となっている現状がある。また排泄ケアに多くの時間をかけることは、センサーなどへの迅速な対応が難しくなるリスクがあった。そこで今年度より排泄ケアチームが困難事例解決に向けた取り組みを開始した。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

排泄ケアは基本であると同時に欠かす事の出来ない中心となる業務であり、多くの時間を割かれてしまう。その業務の中で時間や行程の見直し、個別ケアの実践、不要な更衣を減らすことでの負担軽減、不快感軽減による睡眠の質の向上、スキントラブル予防、コストダウンなど複合的、多角的なアプローチが出来るのではないかと考えた。

《3. 具体的な取り組みの内容》

今回実際に取り組みを開始した 2 名の利用者様について発表していく。

1：排泄ケアにおける改善対象となる利用者様を選定。

- ・選定の方法として、フロア職員に対して課題のある利用者様の聞き取りアンケートを実施。
- ・便漏れの多い利用者様と尿漏れの多い利用者様の 2 名を選定した。

2：個々の排泄間隔の把握と適切な対応を考える。

- ・便漏れの頻回な方への対応として、3 ヶ月分の排泄記録を収集し、データとして最も排便の多い時間帯と排便の無い時間帯を把握した。
- ・オムツメーカーの担当者に適切な製品選定や装着方法のアドバイスを受け、それを実際の排泄ケアの際

に職員に実技を交えながら実践した。

- 尿漏れの課題を抱えている利用者様は、排尿の時間と量を尿測とエクセルで作成した排泄予測表を使用して把握し、尿漏れの際にオムツのどの箇所から、どのように漏れていたかを記入することで、原因の解明に繋がった。
- 把握するのに要した期間は 3 ヶ月、その後の検証期間は 2 ヶ月とした。

3. 個別ケアの実践

- 便漏れに対しては排便の多い時間に個別での排泄ケアを取り入れ、尿取りパッドは入れず、テープ止めオムツのみで対応し、オムツ内に便を収めるための空間を作る方法を実施した。
- 尿漏れに対しては尿量の多い時間にパッドを蛇腹にして入れることで、隙間を無くすことで対応した。

《4. 取り組みの結果》

- 1 人目の利用者様は把握期間 3 ヶ月間での便漏れ率が 72%であったが、取り組み後検証期間 2 ヶ月では 0%にでき、便汚染による更衣を無くしたことで利用者様、職員双方の負担を大きく軽減できた。またパッドの使用量が減ったことで、コスト面では 1 日当たり 13 円削減することに成功した。
- 尿漏れの利用者様は 1 日 2 回の更衣を毎日していたが、取り組み後は 0 回にでき、こちらも負担軽減につなげることができた。またコスト面では 1 日当たり 33.5 円削減することができた。
- 職員の排泄ケアに対する意識変化や技術向上につなげることができた。

《5. 考察、まとめ》

今回の取り組みは、「失禁や漏れが多いから大きなパッドを入れる」という考え方ではなく、排泄時間と排泄量に対する適切な対応をする方法であり、「あえてパッドを入れない」などの対応には戸惑う職員もいた。しかし実際に成功したことで、これが成功体験として意識変化や技術向上に繋げることができた。また不要な更衣を無くすことは拘縮のある利用者様の負担軽減、職員の時間の確保に繋がり、その時間を他の利用者様へのケアに充てることができ、ケアの充実や質の向上にも繋がられると考えられる。

排泄ケアチームという窓口があることで、新たな困難事例に対しても相談から対応までがスムーズになり、生産性向上にも繋がられる。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

株式会社光洋作成資料「排泄ケアの手引き」認知症のある方へのアプローチ

《8. 提案と発信》

排泄ケアは三大介護の一つとして、利用者様の生活を支える重要な支援であり、日々の業務の中でも大きな時間を占めている。こうした状況を踏まえ、個々の排泄タイミングをデータとして把握し、利用者様にとって適切な時間にケアを行う仕組みを整えることで、不快感の軽減やスキントラブルの予防、不要な更衣の負担軽減が期待できる。こうした取り組みは、利用者様がより快適に過ごせる環境づくりに寄与し、ケアの質向上にもつながると考える。